

DRAMA かながわ

《神奈川県演劇連盟》 ★ 231-0042 横浜市中区福富町西通り 52 TEL045-261-4866



60年の伝統をもつ小田原の劇団・乙ゆるぎ座

世界演劇祭招聘
杉田劇場公演

小田原ちょうちん

小田原提灯 息づく舞台

団のぼる (横浜世界演劇祭事務局長)

舞台は小田原宿で親子で開く提灯屋勘兵衛(工藤輝夫)の家。

しかし息子の勘助(関口秀夫)は妻さよ(奥津真理子)と結婚はしているもののぐうたらな男で、売れぬ提灯づくりには気の乗らないあまりほめた職人ではない。そんな勘助に町のご隠居(二見彰彦)が箱根の難所を越えるのに、もつと小さくて足元一軒四方を照らし、水気に強くて懐に収まるような提灯はできないのかと投げかける。おりしも狐つきのうわさが畳屋のばあさん(新井俊子)に持ち上がり町内はてんやわんやとにぎやかである。

あげくは天狗で名高い大雄山の御神木の杉の葉っぱを頭に乗せたら狐つきが直ったという話が広まる。勘助は竹ひごにのりの付きを強くするための工夫などもあるがなかなか旨くはまとまらない。そこへご隠居は狐の嫁入り行列の絵がらの掛け軸を持ち込む。先頭の狐は細身のずん胴提灯を下げている。それをヒントに親子は大雄山の神木を材料に懐に収まる提灯を完成させるのであるが、「勘兵衛だけの魔よけの提灯」と銘打って売り出すために白地の提灯に黒々と小田原と書き込んだ。売れに売れ職人達も活気付き、小田原提灯はやがて小田原藩のご用達となる。

創立60年を記念した舞台は芸達者な俳優陣で固め総勢60人を超す。小田原公民館の大ホールを満席に埋め尽くした観客は人情溢れる世間話に幾度となく笑いどよめき、進行役の狐の黒子の演出はなんともほほえましくいつそう話を盛り上げる。広い舞台を一杯に飾り付ける舞台装置は奥行きも生かして道ゆく人たちの時代も映し出す細かな演出である。小田原市民劇団と自負するだけに観客とともに舞台は息づいている事を実感する。座長の関口さんが公演一ヶ月前にして大手術をしただけに心配だったが無事大役を演じきる。こんな意気込みが神奈川県演劇連盟が推薦するゆえんだ。

3月は世界演劇祭の国内招聘劇団として磯子文化センターの杉田劇場で幕を開ける。これはかなり期待が持てそうだ。

新年・世界演劇祭に期待すること・・・

神奈川県演劇連盟理事長 横田和弘



あけまして おめでとうございます。

いよいよ 新しい年の幕開けと共に 横濱世界演劇祭が始まります。

長い時間と 労力 様々な想いをのせての開幕です。

多くの観客に演劇の魅力をもっと知ってもらいたい・・・との想いのほか やはり我々演劇人に 新しい創造活動の源になるような 刺激と 活力を生むものになればとの想いで立ち上げてきた演劇祭です。

演劇祭のラインナップ 形はやっとの思いで出来上がりました。後は この演劇祭にどんな刺激や宝が詰まっているのか・・・それを探し出すのが最後に残された 私たち神奈川県演劇連盟の 個人個人の仕事 責任です。賞賛するもよし 批判するもよしとにかく演劇の論点の多くが詰まった作品ばかりのはずです。

ただ、苦勞と 労力と 借金(?)だけが残ったなどという演劇祭にするかしないかは、我々の参加の仕方です。演劇のワールドカップが横浜に来たのです。同じ演劇人として 一流のプレーを見逃すわけには行かないはずで。

胸をはれる横濱世界演劇祭の 形は整いました。この先 どのようにして、この演劇祭を広く盛り上げ 多くの観客を集めるかが 成功か否かの課題です。

連盟傘下の劇団員 一人ひとりの力が必要です。一人が一人でも多くの観客をこの演劇祭に呼べば それが世界演劇祭の成功の力になります。この演劇祭の成功は これからの其々の劇団の芝居創り 連盟 演劇環境発展へつながるはずで。力を貸してください。

今年が、神奈川県演劇界の歴史ある1ページになるよう期待しています。

こゆるぎ座「小田原ちょうちん」は県演劇連盟の推薦公演



こゆるぎ座の横濱世界演劇祭への参加は、神奈川県演劇連盟の推薦で決まりました。

小田原で60年の活動を続けるだけでなく、毎年公演で2000名の観客を集める小田原では知らない人がいないという劇団です。

世界演劇祭の「かわら版」のためこゆるぎ座を取材とした坂下泉さんは、「全国的の有名な小田原ちょうちんはどうやって誕生したのか? 携帯に便利なあの独特の形、雨や霧に強く、魔よけの御利益があるとまでいわれた小田原ちょうちんの誕生秘話が解き明かされる。」といい、普段演劇とあまり関わりのないおじいちゃんおばあちゃんにもぜひ見てもらいたいと言います。

かつら、衣裳を始め本格的な時代劇が、町人の人情を温かくユーモラスに描いてとても楽しい作品です。

この公演を成功させるのは演劇連盟の責任でもあります。



「小田原ちょうちん」の舞台写真から

観てほしい「コルチャック先生の選択」

横浜子ども劇場の大原さんが、演劇集団円の小森さん話として、コルチャック先生の作者の話をしてくれました。小森さんは演劇留学でイギリスに行かれていた人だそうですが、今イギリスで最も著名な劇作家がコルチャック先生の選択を書いたディヴィッド・グレイグさんだそうです。

実際、コルチャック先生の作品には力があります。巨大な歴史の動きに翻弄された人々の姿を、たった3人の俳優と人形によって表現しようという構成と演出にも注目です。何より、歴史に正面から立ち向かう意気込みには、たくさんの方を教えられる。本当に観てほしい作品です。



韓国公演「汽車」の公演は800席の青少年センターホールです。3回公演を埋めるのは大変。躍動的な公演を、会場と一体になってみたいもの。大勢のお客さんがほしい。

汽車の会場は
センターホール

世界の演劇が横浜でこんなに
安く観られるのは最高に嬉しい

「ディッター」は団体鑑賞が入ります

デンマークの公演「ディッター・であい・」は横浜の親子劇場の皆さんが団体鑑賞します。

もともと200席の会場です。韓国、スコットランド公演に比べて客席の数が少ないのですが、横浜親子劇場の団体鑑賞により、残りの枚数も大分少なくなっています。

特に3月3日(金)夜、4日(土)昼公演はもうありません。

横浜の親子劇場が鑑賞しない日、また鑑賞数の少ない日には3月3日(金)の昼2時からと、3月5日の夜5時からの公演で、この日はまだかなり残っています。



横浜世界演劇祭のもう一つのプログラム、シンポジウムとワークショップの詳細が固まりました。以下紹介します。

●メインシンポジウム (8面に掲載)

「指定管理者制度と演劇の公共性
～演劇人が試される?!」

●作品関連ワークショップ1

小さい子どもとお母さんのためのワークショップ
(「どうぞのいす」関連プログラム)
2～4才児とお母さんが、日常的な表現を介してふれあう。(小森創介:演劇集団円)

日時: 06年2月17日11時～12時
会場: 神奈川県立青少年センター練習室
講師: 小森創介:演劇集団円
参加資格: 2～4才の子どもと保護者(ペア)
参加費: 1000円

●作品関連ワークショップ2

コルチャック先生の選択・ワークショップ
ダンディ・レップのディレクター、スティーブン・スモールにより、出演俳優も参加して歴史や青少年の抱える問題を考え発展させる。

日時: 2月25日10時～(中高生クラス)
26日10時～(一般・指導者)
会場: 杉田劇場
参加費: 一般・公演観劇料+1500円
学生・公演観劇料+500円

●作品関連ワークショップ3

劇団超人による身体表現のための
ワークショップ
言語を越えて表現される彼らの演劇手法を体験し、台詞だけではない身体表現を体験する。

日時: 3月5日10時～
会場: 神奈川県立青少年センターホール
参加費: 公演観劇料+1500円

●国際交流ワークショップ

「異文化を演(や)る」

世界には、まだまだ多くの知らない文化や言語があります。このワークショップでは、英語・韓国語・スペイン語・インドネシア語・ポルトガル語・のネイティブスピーカーの人たちと組み、一緒にドラマの1シーンを演じていただきます。異文化の人たちと共有するドラマ体験を通じ、「文化の違い」を越えて何があらわれるのか? 何が見えてくるのか?

日時: 2月28日(火)17時30分～
会場: 神奈川県立青少年センター多目的プラザ
定員: 50名(先着順)
参加費: 1000円
申込・問い合わせ: 神田外語大学ミレニアムハウス
館長室(tel・043-273-2742)

G/9-Project 『風呂場港』

作・演出／仲尾玲二

2005年11月

横浜相鉄本多劇場



高校卒業と同時に家業の旅館を継ぐことになった主人公「ミナト」が旅館の風呂場に入り込んだ鯨を救うために「生きることの意義」を求めて、旅館の風呂場からインターネットを通じていろいろな場所を冒険する。いろいろな人々との出会いにより、まっすぐに物事を見ることのできない少女が成長して「生きることの意義」について感じ取ってゆくというストーリー。旅館の風呂場に鯨がいたり、風呂場がインターネットにつながっていたりと尋常でない設定であるが、その尋常でない設定を正当化させてしまうくらい主人公に絡んでくる登場人物が個性豊かなキャラクターばかりだった。個性豊かなキャラクターによって主人公の女の子が物語の上を動いてゆくような感じで、面白かった。

主人公の女の子は演技が巧いとは感じなかったが、若さとルックスでカバーした印象で、好印象だった。その他のキャストについては、それぞれ個性の強いキャラクターをよく演じていたと思うが、演じようとするからなのかセリフが届かない役者も数名いた。全体的に登場人物間の関係がイマイチ見えなかったのと、個人的お気に入りの女優さんが出番の少ない役であったのが残念だった。

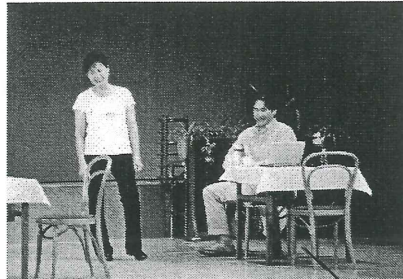
劇団横浜にゆうくりあ 坂下優一

劇団きさく座『さよなきどり』

作／演出／妹尾江身子

2005年10月

平塚市中央公民館



舞台は古い作りの喫茶店、ブルーホリゾントをバックにしてカウンターとテーブル・椅子を配したシンプルな舞台。三人の中年女性が共同経営者である。この三人を中心に物語は展開される。三人は老後に備えてこの喫茶店を購入したが、この店に寄せるそれぞれの思いは微妙にちがっている。愛を語る彼女たちの背後にはその老いがのしかかる。その生き様が淡々と演じられる。どろどろとした情念の劇なのに抑制された演技が透明感のある舞台になっている。なにげない日常の風景を描きながら永遠の時間の相を劇にするソーントン・ワイルダーの世界を思い起こさせた。

この劇は作者妹尾江身子さんのはじめての創作だというのが座付作者の強みで三人三様の身の丈にあった人物像の設定がすっぽりはまっていた面白く観ることができた。ひとつ残念なことは、間口の広い舞台をほぼ全面に装置(小道具)を展開しているため、かなり広い喫茶店の印象を受けた。劇の展開からみてごんまりした店と考えられるので舞台の両端をせめて間口を狭くした方がより密度の高い舞台を創ることができたのではないかと。感銘深く舞台を拝見した。この劇団の活躍が楽しみです。

横浜小劇場 荒井賢一

劇団河童座『想稿 銀河鉄道の夜』

作／北村想 演出／佐野浩史

2005年12月

横須賀市立青少年会館

横浜相鉄本多劇場



頭の中で理解し心の中で感ずることを同時にすることは難しいことなのだなということを感じさせられました。心の中で感ずる世界は宇宙であり夢であるにもかかわらず頭の中で理解することが現実であり救いであるという、頭と心をフル回転させて両者の一致を試みてみました。が駄目でした。

お芝居はテーマが大きすぎて理解する感覚の限度を超えてしまう時その一瞬に驚きや痛みや悲しみを感じずるものですがそれが感じられませんでした。知的遊戯とよんでいいかどうかわかりませんが演出方針のひとつとしてそのあたりを的をしぼるとそのスケールの大きさもそれに対峙した現実の世界もとらえやすかったのではないかと一観客として感想をもちました。

とにかく盛り沢山でそれぞれに役を演じられた皆さんには個性があり楽しく見させて頂きましたが、もうひとつつきぬけるような現実へのいとおしさのようなものが伝わってくると良かったかなと感じました。これからもどんどん沢山のお芝居を見せてください、必ず見に行きます。

劇団蒼い群 村田次郎

劇団麦の会

『☆麦畑☆秋の大収穫祭』

作／山口雄大・岡本みゆき

三嶋洋一・古澤亮

長井玲子・森大輔

2005年10月

アトスペース関内



オムニバスの収穫祭、去年よりさらにずっと笑えました。なかでも『磯野課長の憂鬱なウィークエンド』には参った、何がこんなにおかしいのでしょうかってくらい笑ってました。『カップカッパラッタ』はナンセンスでにやにや。これがあって課長の笑いにつながる訳です。『スクール』は少し大人の選択、雰囲気ありました。『雨宿り』地方出身者のコミュニケーション不足の寂しさこれは、子供が幼い主婦なんかにも共通するところで思い出しました昔のことを。そして、心ほんわか、おせっかいのいいところみせていただき、心明るくなり、雨もあがった感じで気持ちよかったです。『ぬいぐるみ』はキャスト逆のほうが自然かなあなどと思いつつ、えっ！ぬいぐるみ捨てちゃうのってショック、そりゃ

ないんでないの。あまりにも冷たい。家に帰ってその話をすると「作者の思う壺なんでないのその感想は」と言われました。そうなんですか？『血の雨』相続問題このあたりから私は小さな関係ない小道具に目がいってしまいました。この作品では遺書の本。おばあさんの着物の襟元。『ばあちゃんの遺産』では埃まみれの箱、日記いっそ無いほうがいいのではと・・・失礼。気持ち集中なくなってしまうて、泣いている方もいらしたのに、私、残念。『Snow crystal』父の年代の男ってこんなかなあ、長く連れ添ったつれあいを 亡くすのってこんな風に正気を失うのかもしれないなあ。いや失っているわけではなくお別れをしているのですが。

劇団横綱チュチュ 今井久子

劇団蒼い群『さよならパーティ』

作／演出／

2005年11月

横須賀市立青少年会館



大変重いテーマに取り組み、一生懸命演じられていることに、敬意を表します。とても考えさせられた芝居でした。一見、荒唐無稽と思われる設定（戦後45年、平成2年～4月上旬、生きる望みを失った中高年男女が、それを食べれば苦痛なく死を迎えられる「木の実」の元に集う。一人の女主人公が、戦時中に入手したもので、「お遊びではないか?」と思ってしまった。途中からは、戦争の悲劇、認知症、エイズ等、現代人の抱える苦悩が語られ、ネットで「自殺志願者が集まって集団自殺?」ということテーマにしているのか、と色々考えながら観ていた。最後に、女主人公が「自分で自分のイノチを操作できると思うなんて傲慢じゃなくて?」と落ち着かせてくれた。自殺志願者の夫が、妻を翻意させようと必死になっている。すこしツクリスギと思ったのは私だけ? 一生懸命演じているのに、とても残念なことが二つあった。一つは、上演中に、かなり遅くまでポツポツと人が入ってきたこと。集中を途切れさせ「何とかして!」と思った。二つ目は、上袖の奥の明かりが、暗転中の転換を丸見え状態にしている。どちらも幕を吊るとかしたらどうなのかなと思った。観てから、だいぶ時間がたっているので、印象が違っているかもしれないと……。

劇団川崎演劇塾 吉濱信恒

劇団葡萄座『むかしむかしの・・・』

作／中村俊夫 演出／山本伸二

2005年11月

杉田劇場



今回の葡萄座の公演は書き下ろし短篇昔話3題。今年2月にオープンしたばかりの杉田劇場には子供連れの家族が多く見られ、非常に活気溢れる客席だった。中に入ると舞台の下手側には花道、上手側には語り手のセットが組まれていた。開演時刻を過ぎほどなく1話目の『身代わり佛』が始まる。このお話では、素直な娘を冷酷な継母が湯の中に突き落としてしまうシーンがあり胸が痛んだ。2話目の『馬泥棒』は息子が終始つぶやく「困った、困った」が話しの後半になるにつれ可笑しくなってしまう、また、泥棒子の動きが愉快でこの2点がやけに気に入ってしまった。3話目の『かっぱ地蔵』ではかっぱの面妖な動きが怪しく興味深く見ていたが、まさか1話目の継母を演じていた役者さんだったとは想像もできなかった。上手く化けたなと感心する。公演中、セット変えや鳴りもの、翌作品の紹介など黒子が活躍していたが、それら黒子を出演者がこなしていたのにも驚いた。どの作品も心温まるお話だったが、昔話を芝居で見せるため途中の語りや進行、場面展開が単調に感じてしまう所があり少し気になってしまった。昔話をお芝居で見るのは小学生以来でなんだか懐かしい気持ちで劇場を後にすることができた。

G/9-Project 吉田球映

劇団かに座『煙が目にしみる』

作／堤泰之 演出／田辺晴通

2005年11月

かなっくホール



観たかったですよ! この作品。演鑑で加藤健一が演った時も観る機会を逃してしまったし、なぜか上演の度に日程が合わなくて、観たいのに観れない作品だったんです。ようやく観る事が出来ました!

さすがに伝統ある『かに座さん』最後まで飽きさせず、笑って、わらって、ホロリとさせてくれました。

何も言わずに死んでしまった人も辛いでしょうが、残された人間はその想いが解らないだけにもっと辛い。そこで死者の声が解るお婆さんが出て来て……。そしてこのお婆さんが、実に面白い。『おばあちゃんは少しホケていて……。』と言われながら、後半のスーパーウーマンぶりは芝居の要となっていました。かに座はメンバー不足などおっしゃっていますが、バラエティー豊かなメンバーで、羨ましいかぎりです。特に女性人の実力が芝居を光らせていました。残念なのは全体的に演技力のバラツキが見られた事。経験や稽古量のせいかと思われませんが、細やかな演出だけに気になってしまいました。

何はともあれ想いを残さず、想いを伝える事が出来るって最高に幸せ! ですよね。

劇団きさく座 樋口晶子

劇団蒼生樹

『室町版 お気に召すまま!』

脚本／劇団蒼生樹

演出／濱田重行

2005年12月

県立青少年センター多目的プラザ



住みなれた教育文化センターホールでの公演はなれ、新天地?の青少年センター2階の多目的ホールでの公演へと新展開をみせた。会場入口を入ると音響ブースが作ってあり、舞台からみてL字型の客席が広がる。その客席を2分する様に二重を敷いた花道。フラットな舞台はデーンと太い柱が中央あたりに鎮座している為、その廻りを階段で囲み、その奥手に黒紗と森の葉をたらし、大きな森があるという設定。下手、上手には白い門のようなセットが作られていて、役者の出入口になっている。少し気になったところ、出演者が柄つきの足袋を履いているのだが草履などの履き物ははいておらず違和感を感じたが、衣裳などからみると能・狂言の手法を取り入れているので、足袋だけで演じているのかも思えた。人物紹介などで一幕目は淡々と物語は進み、

二幕目、しょっぱなから如月(勝碯若子)国光(憂木かおる)のやりとりで場内爆笑?をとり、堅苦しさの抜けた舞台は笑いのたびたびおこる時間になる。この芝居の中で私がとらわれたのは、領主の継条(平丸寿博)が大黒柱の前で、おちてくるつる(蛇?)にからまれ首を絞められるくだりに行く前にその柱を中心に右往左往する所で、ふと映画「蜘蛛の巣城」を思い出した。主人公鷲津三郎が矢で打たれる場面をほうふつとさせるものでした。この芝居では継条が兄の貴継(河住靖一)へとたびき和解をしていくのですが、新人とベテラン東雲(渡辺孝子)十六夜(清水泰子)露(熊谷浩子)静(野口由美子)らの役割があいまって面白い舞台に仕上が、最後のカーテンコールでは本物の酒まで振るまわれるというおまけ付き。

劇団葡萄座 羽生昭彦

地元・杉田の地域に根ざした演劇活動 ～ 劇団横綱チュチュ 安次嶺絵里子

劇団「横綱チュチュ」を立ち上げて、初公演をしたのは、2004年2月の神奈川県演劇連盟主催の横浜博覧会参加公演でした。演劇のことはなにもわからない主婦の集団が、毎日毎日「私たちにできること」を探し、稽古時間の調整、体力をつけながら演劇のことを吸収していった日々でした。公演後は劇をやりとげた達成感と、そして、会場にあふれるほどの観客が集まってくれたことに驚きと感謝が入り混じり、興奮で混乱してしまいました。その後、劇団は「心があたたかくなる劇をとどけます」をモットーに、2004年9月磯子公会堂で旗揚げ公演、2005年2月杉田劇場のこけら落とし公演と立て続けに大きな会場での公演をしました。たくさんのアンケートをいただき「公演を観てパワーをもらいました」「初めて演劇の舞台を覗きました。すごく感動した。」とありました。自分たちは、ただやりたくて舞台を作ってきたのですが、観た人たちにそんな風に影響を与えていることは、とても不思議に感じました。



地域公演の舞台から

地域に新しくできた杉田劇場でこけら落とし公演直後に、杉田劇場のオープニングフェスティバル記念事業に参加し、一般人参加の演劇ワークショップを運営し、「地域に根ざした劇団」を目指す劇団「横綱チュチュ」として、より地域での活動での原点からのスタートができたように感じました。そして、『演劇』と初めて触れ合う人たちとも、一緒に学びながらワークショップを展開できることも課題であると感じました。最初、恥ずかしそうにされている方も、体を動かし、心をほぐしていくと、驚くような演技をされたり、味のある表情をされる場面に遭遇しました。「地域で『演劇』という文化の風を吹かせる」という大目標に微風ながらも吹きはじめているかなと思いました。

劇団は、固定の稽古場を所有していないので、稽古の場所を、磯子区を中心としたコミュニティハウス、地区センター、ケアプラザなどを利用しています。週3日稽古をするので、毎回稽古場を確保するのが「稽古場担当者」の至難の業。本当に大変なんです。2005年4月から「小笑SHOW」公演と称して、地域で巡回公演を始めました。巡回公演をする理由は、「稽古場として提供してくださる感謝の気持ち」と、「地域で『演劇』という文化の風をふかせる」、自分たちの子どもは学校（小学校）で演劇を観る経験がない、少ない。また、都心のホールまで足を運ばなくても生活環境の中で演劇を観ることができる環境を作りたかったからです。「小笑SHOW」公演は、「受話器の向こう側」（公演時間20分）1回、「うりこひめとあまんじゃく」（公演時間30分）7回、「たいせつなきみ」（公演時間30分）を終えまだ継続しています。公演後のアンケートでは、「楽しい!」「小さな子ども（幼児）も一緒にみるこ

とができてうれしいです」というコメントをたくさんいただきます。「演劇が楽しいと感じてもらえている」団員一同「ヤッター」とガッツポーズをとる瞬間です。



これは本公演の舞台です

しかし、巡回公演の苦労もいろいろあるのです。会場が変わるということは、舞台セットの大きさを変え、演出を変える、照明を変える・・・など、毎回一から作り直しが必要。せつかく覚えた段取りを組み直すということは、団員にとってもとても苦痛だったと思います。さらに、舞台セットを運搬し1公演が終わるたび、きれいに分解し、保管するという力技も相当なものです。しかし、不平をいわずに励む団員たちには本当に頭が下がります。「ありがとうございます」

地域に住んでいる団員が多く、町内会、子どもが通う学校、地域で活動する機会も多くあります。それぞれの方法で、小学校、地区センターで子どもたちに「本のよみきかせ」、子ども会への参加など、ステージとは違う舞台で活動を行っています。ちょっと振り返ってみるといろいろな場所で公演ができたのも、子どもがいるおかげかもしれないです。地域で出会う人たちから、最近「劇団『横綱チュチュ』を知っていますよ。公演があったら知らせてね」と声をかけてくださいます。

そして、普段の生活の姿勢こそが、次の「舞台」にあらわれると感じ、地域で歩くときは「車がこなくても、赤信号はちゃんと待つ」「道路は横切らない」「買い食いはしない」「声をだして、笑顔であいさつをする」を実行しています。



あなたはどの日に感激するか？ 自慢の作品を連続上演



2月23・24日組(両日とも18時半開演)

Ⓐ 郷マイムプランニング

「パントマイム in 横濱」

郷田こう、明日可

1998年・2003年に引き続き〜3年振りに帰ってきました! 「パントマイム in 横濱」。

今回は演劇博覧会に初登場です…! パントマイム観てみませんか? 意外とツボにはまるかも? 何が飛び出すやら… 乞うご期待?



2月23・24日組(両日とも20時半開演)

Ⓒ 劇団かに座

「花いちもんめ」

作:宮本 研 演出:馬場秀彦 出演:船越園子

中国、敗戦の混乱、次々に屍となる肉親、子供の命を守るため断腸の思いで幼児を里子に出した母、その母は今日日本にいる。そしてその子は母を求めて今日日本に来ている。だが逢ってはならない抱きしめてはならないのだ!! 今語る女優一人芝居!!



2月25日組(13時半・17時半開演)

Ⓔ まりこ☆みゅーじあむプロデュース

「部屋=ROOM」

作:原田一樹 演出:川井真理子

出演:調布 大、沖 考二、配島朋子、川井真理子
同じ部屋が積み木のように並ぶワンルームマンションを舞台にした2つの部屋の2つのドラマ。子供から大人まで楽しめるジャンルを問わない舞台を目指し、朗読公演をお届けする「まりこ☆みゅーじあむ」。今回はお芝居、初公演!



2月25日組(15時半・19時半開演)

Ⓖ 劇団きさく座

「結婚したい医師(おとこ)たち」

作・演出:石井健二

出演:伊藤大助、佐々木了、久保健司、石井健二
舞台は、医師のための結婚パーティーの控室。結婚したい医師たちが、それぞれの事情を抱えながら結婚への思いを語る。待つは、セレブを夢見る女たち。果たして? 平塚のきさく座が躍る、男四人のハートフルコメディをどうぞ!



2月26日組(13時半・17時半開演)

Ⓘ 劇団横浜にゅうくりあ

「DON'T TOUCH ME
〜俺にさわると危ないぜ」

吉浜直樹、KENTAX、坂下優一、柳田一伸、他
横浜のとある高級レストラン控室で、この高級店には不釣合いの給仕が叫ぶ? DON'T TOUCH ME!? この男にこう叫ばせるものは何なのか。ヨコハマ・オリジナル・シアターを展開する劇団横浜にゅうくりあ最新作。



2月26日組(15時半・19時半開演)

Ⓚ 劇団シアター

「色気虫は色気好き」

作・演出:辻 三太郎 音響:田中早苗

いやあ、今回は、ちょっと変わった出し物を創ってみました。出演者が人間じゃないのです。色気虫です。人間には色気のある人がおります。そこから出てくる色気を食べて生きているという架空の虫です。一体どうなりますか?



2月23・24日組(両日とも19時半開演)

Ⓑ パフォーミングアーツ・プラン

「都市伝説」

花佐和子、菅原顕一、夏木俊成 ほか数名

構成・演出:和田裕子

乾いた愛でも、人は愛を求めた。冷えて行く大気、体温を失いながら、人はそれでもめくもりを探した。太陽磁波の嵐が吹きすさぶ中、灯台に難を逃れた漂流船。彼らが見たものは、見える幻。何千年も昔、フルトウム爆弾と、迎撃ミサイルが上空を炸裂し、地球が火花で覆われたことがある。取り残され、今は海に浮かぶ遺跡、東京タワー。幻がほえる。愛をよこせと。自由を求めよ、正義をなせと。雪が降りつむ。人は哀しい。人はほしい。そして、さみしい。今はむかし。



2月25日組(12時半・16時半開演)

Ⓓ すいしん

「公園」

作・演出:エミリオ☆

出演:瀧田 和彦、中村 貴彦、エミリオ☆ 他

横須賀を拠点に活動中!! 「すいしん」って?!
推進=演劇を広めよう!! 酔心=演劇に酔ってみよう!!
演じ手も、観る側も、心から「公園」に酔えます様に…!!



2月25日組(14時半・18時半開演)

Ⓕ 横浜小劇場(横浜演劇研究所付属劇団)

「捨骨(すてぼね)」

作:市瀬佳子 演出:長谷川剛彦

出演:宮里保代、新井学慈、大村真悠子、高安誠吾
カレンが突然亡くなった! あなたなら、どうしますか? 冬も終わりの夕暮れ、お寺の和室。四人が火鉢を囲んで、餅を焼いている…(プロローグ)時はその小一時間前。「なつみ」が、久しぶりに寺を訪れた。そこから始まる愛おしくもピュアなショートドラマ。
[日本劇作家大会2005熊本大会コンクール最終候補作品] 所載



2月26日組(12時半・16時半開演)

Ⓗ 移動する羊

「オボロケ」

加田 斎、玉利麻衣子、竹内昭彦

身体、心をすべて使い切る。反応によって生まれる身体と心の運動を表現する。そんな役者たち。そんな物語。



2月26日組(14時半・18時半開演)

Ⓛ 演劇披露ウツボ団

「サンシャイン・ベイビー」

脚本・演出:飯島 大 出演:重村健太、飯島 大
スタッフ:鈴木寛徳、永田智彦

そう遠くはないであろう未来。わかってましたよ、もうどうにもならない。って。めでたいはずの一日。せまる宴のはじまり…。大丈夫なふりをする男二人の物語。になる予定です。新作で臨みます。みんな相鉄本多に集合!

昨年・一昨年と内外共に大変好評をいただいた神奈川演劇博覧会も今回で三回目。参加劇団はなんと11劇団と最大規模に増え、堂々の開催です! ちょうど今年は「横浜世界演劇祭2006」も開催され、いよいよ目の離せない企画となっております。どうぞご期待を!

開演予定時間			
	23日	24日	25日
12:30			
13:30			
14:30			
15:30			
	A	B	C
	D	E	F
	G	H	I
	J	K	L
	M	N	O
	P	16:30	17:30
	17:30	18:30	19:30
	18:30	19:30	20:30

主催:神奈川演劇連盟・神奈川演劇博覧会実行委員会
共催:横浜SAAC・横浜世界演劇祭2006実行委員会

横濱世界演劇祭 2006 エデュケーションプログラム

シンポジウム

指定管理者制度と 演劇の公共性

指定管理者制度の導入は公立文化施設のアートマネジメントに多くの課題を突きつけています。改めて、問われているのは市場原理をとり入れた運営方法、経費節減ということだけではなく公立文化施設として提供すべき新たな「公共性」の構築です。

スコットランド東部、人口十数万の都市ダンディのわずか450席の地域劇場ダンディ・レップが今英国の演劇界の注目を集めています。長く荒れた町として苦しんだダンディの再生をかけた都市計画の中心的な役割を担う中で、ダンディ・レップが挑んだのは、経済性と芸術性の前に、英国では既に過去のものとなってきた「劇団制」をあえて再興し、コミュニティに生き、そして国際的評価につながる演劇創造を続けることでした。

また、劇団とともに、同劇場にレジデントしているのが、いまスコットランドのみならず英国を代表する現代舞踊団として知られるまでに成長した「スコティッシュ・ダンス・シアター」です。

そして、さらに、2004年夏、新たに設置されたのが「エデュケーション&コミュニティ・チーム」であり、その活動は演劇という媒体を生かしながらも、社会・福祉政策ともリンクした多彩な活動です。

公的支援が充実しているといわれる英国にあっても、決して劇場はつねに財政難と直面しています。質の高い芸術創造を続け、そしてコミュニティに生きる地域劇場の社会的責任を果たすために、限られた資金と人材を最大限に生かし、さらに新たな財源を求める?小さな地域劇場が演劇の新たな公共性に挑む姿から、指定管理者時代の劇場運営、公立文化施設のあり方への指針を探っていきます。

日時 2006年2月27日(月)午後7時?午後9時30分
 会場 神奈川県立青少年センター・多目的プラザ(横浜・桜木町)
 パネリスト ローナ・デュグイット
 (ダンディ・レップ・シアターエグゼクティブディレクター)
 大野 晃(神奈川県民ホール館長/財団法人神奈川芸術文化財団)
 西川信廣(演出家/文学座)
 司会 中山夏織(特定非営利法人シアター・プランニング・ネットワーク)
 参加費 一般1,000円 学生500円※料金は当日受付で申し受けます。
 お問い合わせ 横濱世界演劇祭2006チケットセンターTEL045-243-9050

演劇連盟2月~5月の公演予定

劇団河童座 「あゝ、あっぱれ12人Part4」
 5月13・14日・相鉄本多劇場

劇団葡萄座 アンドレ・ルッサン「あかんぼ頌」
 5月27・28日・杉田劇場

ローナ・デュグイット

ダンディ・レップ・シアターエグゼクティブ・ディレクター
 スコットランドのアバディーン市出身。アバディーン大学卒。スコットランドを代表する劇団7:84スコットランド、コミュニカド、ヴァンプ・プロダクションなどのアドミニストレーターを経て、1990-91年、ロンドンのシティ大学芸術政策経営学部アーツ・アドミニストレーション課程に学ぶ。1991年から2001年までグラスゴーの名門地域劇場のシティズンズ・シアターのアドミニストレーター、2001年から2003年、TAGシアターカンパニーの事務局長を務める。2003年より現職。アンサンブル・カンパニー、ダンス・カンパニー、そして多彩なエデュケーション&コミュニケーション活動を抱えるユニークな地域劇場ダンディ・レップの経営面を支えるスコットランド演劇界の才媛。

大野 晃

神奈川県民ホール館長。
 1931年神戸生まれ。
 慶應義塾大学法学部卒。文化庁派遣芸術家在外研修員として欧州で劇場研修。
 日生劇場技術部長、東京グローブ座劇場担当支配人等を歴任。この間、ウィーン・ブルク劇場、モスクワ芸術座、英国ロイヤル・シェイクスピア劇団、英国ナショナル・シアター、スウェーデン王立劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、中国上海舞劇団、ノルウェー国立劇場他、多数の訪日公演日本側舞台監督を務める。
 長門美保歌劇団公演オペラ「ラ・ボエーム」「蝶々夫人」「愛の妙薬」「泥棒とオールドミス」等の演出。舞民族舞踊団の全レパートリーを演出。第二国立劇場開設準備演劇専門委員を務め、2004年横浜市磯子区民文化センター(杉田劇場)指定管理者制度公開公募の審査委員長を務める。現在、神奈川県民ホール館長、神奈川県公立文化施設協議会会長、(財)舞民族舞踊文化財団常務理事、(社)劇場演出空間技術協会理事、日本舞台監督協会副会長、国際民族芸術組織(I. O. V JAPAN)評議員、全日本舞台・テレビ技術関連団体連絡協議会(全技連)幹事、日本民俗芸能協会監事、昭和音楽芸術学院非常勤講師、ほか。

西川 信廣

86年、文化庁在外研修員として英国滞在。文学座公演のみならず、プロデュース公演から商業演劇、ミュージカルまで幅広く演出。主な演出作品に『寒花』(文学座アトリエ)、『母たちの国へ』『野望と夏草』(新国立劇場)、『北の阿修羅は生きているか』『崩れた石垣、のぼる蛙たち』、『ドン・ジュアン』(文学座)、『小さき神のつくりし子ら』『夜の来訪者』(俳優座劇場プロデュース)など。東京芸大等で講師を務めるほか、数多くの演劇ワークショップに携わる。
 『マイ・チルドレン、マイ・アフリカ』(文学座アトリエ)で第27回紀伊国屋演劇賞、芸術選奨文部大臣新人賞。94年、97年、98年読売演劇大賞・優秀演出家賞。96年度文学座アトリエ公演『水面鏡』で読売演劇大賞・審査員特別賞、『ベンゲット道路』(文学座)『オナー』(文学座アトリエ)『ウィット』(パルコ)にて、2002年度読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。横浜市在住。

神奈川県演劇連盟連絡先など

神奈川県演劇連盟事務局: 横浜市中区福富町西通52 横浜演劇研究所内
 ホームページ: <http://kenenren.web.infoseek.co.jp/2003/>
 青少年センター資料室Tel:045-263-4400
 (演劇資料室呼び出し)